

# 教えて!

## 富山 けいざい



### 百貨店は業績不振?

◆全国で10店閉店予定/郊外店・ネットが攻勢

ブン子さんは北陸経済研究所(富山市)の調査研究部の熊野和夫主任研究員に聞きました。

Q-高岡大和が8月に閉店するわ。そもそも百貨店の定義ってなあに。

A-経済産業省の商業統計調査の基準によると、衣・食・住の各種商品の販売額がいずれも10%以上70%未満の範囲内にあり、従業員が50人以上の事業所を言います。県内では富山大和と高岡大和が該当します。



Q-総合スーパーとの違いは。

A-品揃えは同じですが、売り場面積の50%以上で対面販売を行う業態が百貨店、イオンや平和堂、アピタのように売り場面積の50%以上でセルフサービス方式を採用しているのが総合スーパーです。

Q-全国に何店あるの。

A-経産省の商業動態統計によると、2019年3月末時点で全国に220店あります。08年のリーマン・ショックの影響で09年に22店、10年に16店が閉店するなど、この10年間で87店が減りました。その後は訪日外国人の消費効果もあり閉店数は年1桁ペースとなりましたが、今年は全国で10店が予定。新潟県では来年3月に新潟三越が閉店し新潟伊勢丹のみとなる見込みです。

Q-地方の状況は。

A-大手の三越伊勢丹グループも店舗を減らしていますが、地方の百貨店はそれ以上に苦戦を強いられています。主な要因は「少子高齢化」「郊外店との競合」「ネット通販の攻勢」です。「買いたいブランドがない」「駐車場が不便」といった消費者の不満も聞かれます。日本百貨店協会の速報によると、4月の百貨店の店舗面積100平方メートル当たりの平均売上高は、主要な10都市で約1140万円、このほかの地区で約490万円となっています。

Q-県内百貨店はどうなる。

A-車社会の定着により、消費者の郊外店を選ぶ傾向は強くなっています。イオンモール高岡やファボーレ(富山市)の増床が秋に予定され、百貨店の経営環境は厳しさを増すと予想されます。